

事業所名

児童発達支援 くじら雲

支援プログラム

作成日

2025年

7月

31日

法人（事業所）理念		立場や世代の異なる多様な人たちが関わり、つながることのできる多様な場づくりを行うことにより、地域に暮らす一人ひとりが共に支え合うことのできる社会の実現を目指します。					
支援方針		異年齢の子ども達と活動する。（外遊び・室内遊び・ルールのある遊び等） 個別支援でそれぞれの個人の課題の支援をする。（5領域に沿った療育） 子ども個人の特性に沿った支援を具現化して実施する。（家庭・幼稚園・保育園・医療機関・行政等）					
営業時間		10時	0分から	17時	0分まで	送迎実施の有無	なし
		支援内容					
本人支援	健康・生活	基本的な生活習慣や生活リズムを習得するために、手洗いや気温に応じた衣服の着脱、おもちゃの片付けなど適切な言葉掛けをしながら関わっていく。 健康状態の把握と、発達の特性に配慮して小さなサインから心身の異変に気づけるように細かな観察を行う。					
	運動・感覚	身体の緊張や弛緩の感覚を身につけると共に体幹を強くするためにキッズヨガを取り入れる。 また、紙や木・布・粘土などの異なる質感の材料に触れて指先の触覚を養う。 バランスボールやトランポリンで音楽に合わせて遊びながらバランス感覚を養う。 眼球運動を促すビジョントレーニングを提供する。					
	認知・行動	自分や他人の感情を理解し、衝動的な行動を抑える力を育てる 絵カードなどを使って1日の流れを示して時間の認知形成を図る。 散歩や商店街の散策から四季の変化に気付く。					
	言語 コミュニケーション	自分の思いを言語に表出できるように語彙を増やす。（絵本や紙芝居の読み聞かせ・しりとりゲーム・なぞなぞ等の遊びを通して） 口腔機能の訓練（お口モグモグ・ブクブクうがいの仕方等）も合わせて実施し明瞭な言語を習得出来るように寄り添う。 言語が不明瞭な場合は、表情や絵カード、タブレットの利用などでコミュニケーションを図れるように支援する。 また、人の話を聞くことが苦手な子どもには、集音マイクやイヤーマフの利用を勧めて、その子供に適した支援をする。					
	人間関係 社会性	個人の長所を認め、自尊感情を育む場を設ける。 工作や集団遊びの中で各々の役割を果たし、完成した喜びを共に味わう。 遊びのルールを身につけていくなかで仲間づくりや他者との関り方が身につくように寄り添う。					
家族支援		定期的な面談を実施し、子どもの成長の様子や家庭での状況を把握する。子どもの送り迎えに来られた際に保護者に当日のようすを伝えると共に、連絡帳や個人のラインを活用して共通理解を図る。 子どもとの関り方に悩みを持つ保護者に対しては、個別の相談援助を実施するとともに、就学後や学校卒業後も見据えて、長期的な保護者の安心につながる学びの機会（講演会など）の提供を行っていく。	移行支援	子どもが1日の生活の中で長時間過ごす幼稚園、保育園の担任の先生や管理職と連絡を取りあう。 5領域の中のどの領域に重点を置いた療育を幼稚園や保育園で行っているかを把握して、同じ方向で療育を続けたり、異なる領域の療育を事業所で受け持つかを話し合う。 また、行政の各機関とも定期的に連絡を取り情報の共有を図る。			
地域支援・地域連携		新大宮商店街の中に位置する事業所なので、商店街での買い物を楽しんだり、イベントに参加する。また、近隣の人と挨拶を交わしたり交流する。 将来的に通う予定の小学校や幼稚園・保育園の教職員との情報共有をはじめ、関係機関等と積極的に連携を図る。支援方針のすり合わせや定期的なケース会議、情報共有を通じて、子どもにとっての切れ目のない支援体制を構築する。		職員の質の向上	京都市北部地域自立支援協議会の児童部会の定期的な研修に参加する。また、虐待防止研修やハラスメント防止の研修と共にコンプライアンス研修を必ず実施している。 福祉従事者として自閉症スペクトラムや聞き取り障害への専門知識や理解を深める研修の中で自己研鑽を図る。		
主な行事等		お誕生日会・七夕の会（願い事を短冊に書く）・ハロウィンイベント・クリスマス会・書初め大会（文字が書けない児童は絵や指で書く）1年の成長を話す会					